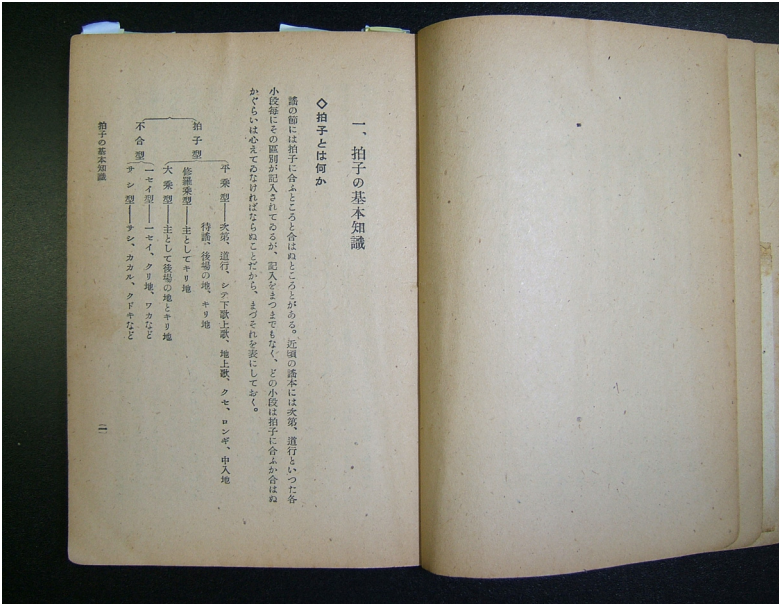
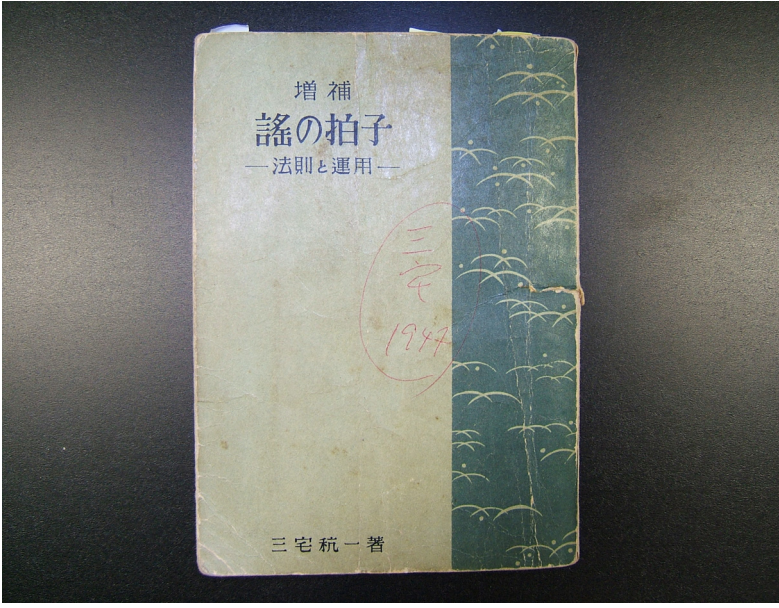


三宅 粂一 『増補 謡の拍子 ―法則と運用―』

内容的には98頁と変わりないが、図示を増やす等、わかりやすさを考慮した改訂が全編に施されている。本地上句を扱う少ないスペースで、上句七文字が五文字と二文字に分節される場合に触れているのは印象的だ。五文字と二文字に分節されるなら「本間謡ひ出しの常則を破つて、八字句同様に半声謡ひ出しとするのが殆ど原則となつてゐる」と述べ、例外ではない扱いをする。それは、「言葉自然のアクセントからいつてその方が調子がよいからである」(五一頁)。この理由づけも簡潔明瞭である。



標題 内題…

標題紙…増補 謡の拍子 ―法則と運用

奥附…

その他…増補 謡の拍子 ―法則と運用

―(表紙)、増補 謡の表紙(背)、

謡の拍子(目次)

著者 奥附…三宅粂一

その他の場所…三宅粂一(標題紙・表紙・

背)

出版 版次…再版

出版地…東京

出版社…檜書店

出版年…昭和24(1949)

その他の場所…序 昭和22(1947)

形態 冊数…一冊 頁数…一五二頁

寸法…17×13 (cm)

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考 初版は昭和三二(一九四七)年。